

リサイクルパークあさお環境学習施設等の愛称募集について

【リサイクルパークあさお整備事業概要】

本事業は、資源循環型社会の構築に向けた北部地域の総合的廃棄物処理施設の整備であり、平成24年4月から、北部地域のごみ処理施設の拠点として「王禅寺処理センター」が運転を開始し、また現在、粗大ごみ処理やリサイクルを行う「資源化処理施設」、環境について学ぶことが出来る「環境学習施設」、市民の憩いの場として自由に利用ができる「緑地広場」の整備を進めております。

資源化処理施設【環境学習施設を含む】

(平成28年4月オープン)



- ・粗大ごみ：40t/日(5h)
- ・空き缶：40t/日(5h)
- ・空き瓶：25t/日(5h)
- ・ペットボトル：12.5t/日(5h)

王禅寺処理センター【ごみ焼却処理施設】

(平成24年4月オープン)



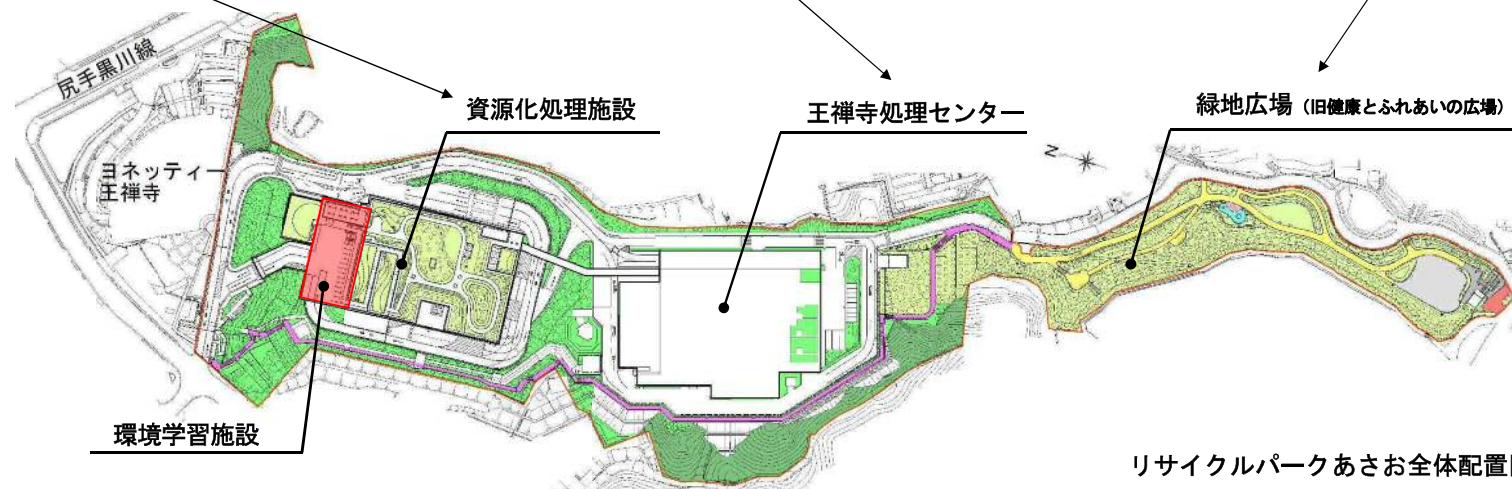
- ・処理能力：150t/日×3炉
- ・発電能力：7500kwh

緑地広場【旧健康とふれあいの広場】

(平成29年1月オープン)



- ・散策路
- ・広場
- ・樹林地
- ・菖蒲池



愛称募集

目的

平成28年4月に「資源化処理施設」「環境学習施設」、平成29年1月には「緑地広場」がオープンする予定です。

この「環境学習施設」と「緑地広場」のイメージアップを図るとともに、市民の皆様に親しみやすい施設となるよう、それぞれの愛称を募集いたします。

スケジュール

平成27年 7月（下旬）～9月（上旬）：募集期間

10月： 愛称決定

平成28年 3月： 表彰式（施設完成式典・内覧会にて）

4月： 環境学習施設オープン

平成29年 1月： 緑地広場オープン

～環境学習施設～

◆施設の特徴

- ・環境問題（資源循環、地球温暖化、自然共生）について、見て、聞いて、触って、体験しながら学習
- ・子どもたちが興味を持つように、コンピュータグラフィックやAR技術^{*}を用い、ゲームやクイズ形式で楽しく学ぶ
- ・時代の流れに対応できるように、内容の更新がしやすいデジタルソフト方式を採用

^{*}AR (Augmented Reality) とは、「拡張現実（感）」と呼ばれている技術で、カメラを通して空間を認識し、3DCG等で「モノ」や「情報」を、カメラの映像に重ねて表示させることで、カメラを通して見る世界にコンピュータが情報を追加したような感覚にさせる技術です。

◆施設概要【資源化処理施設の4階、3階の一部】(面積：約850m²)

4階 エントランス（約80m²）

3階 事務室（約50m²）、展示室（約500m²）、研修室1（約130m²）、研修室2（約90m²）

●展示室（3階）



●研修室1・2（3階）

団体利用者向けのガイダンス、休憩及び学習スペース、企画展示・イベントスペースとして利用

●その他（屋上）

太陽光発電設備、風力発電設備、太陽光集光設備

①エントランス（4階）

メインキャラクターの「かわるん」が来館者を迎えるセンサーによりメッセージが表示



②ウェルカムゾーン（展示室）

施設及び案内キャラクターの紹介、なぜ環境問題について学ぶ必要があるのかを考える



③資源循環ゾーン（展示室）

資源循環・ごみ処理、3Rのあり方と重要性について学習



④温暖化ゾーン（展示室）

低炭素・地球温暖化や再生可能エネルギーについて学習



⑤自然共生ゾーン（展示室）

川崎市の自然の歴史と動植物の生態について学習



⑥総合学習ゾーン（展示室）

川崎市・企業・市民の活動紹介、学習のまとめと復習及び問題提起



～緑地広場（旧健康とふれあいの広場）～

◆施設の特徴

- ・郷土種を中心とした樹林により山の風景をイメージし、緑の多い周辺環境に溶けこんだ空間を創る。
- ・だれもが気軽にに入る開放的な広場や散策路、菖蒲池や休憩スポットなど地域の憩いの場となる空間を創り出す。

5つのゾーン

-
- ・郷土種回復ゾーン
 - ・散策とふれあいのゾーン
 - ・菖蒲田ゾーン
 - ・低木植栽ゾーン
 - ・休養、交流ゾーン

◆施設概要

全体面積：約 10,000 m²

- ・緑地：約 6,000 m²（テニスコート約 23 面分）
- ・菖蒲池
- ・散策路（森の中を通る散策路、花を楽しむ散策路）
- ・広場（芝生広場、ダスト舗装による広場）
- ・ベンチ（池や散策路の休憩スポット）、トイレ（男女別、多目的トイレ）



【緑地広場ゾーニング計画図】

